

⑪ 追想、先妣甚好_二象戯_一而不_二敢爲_一、及_二臥_一病、間則召_二兒共對_一局、互有_二勝負_一、其笑語運_二馬_一、宛然_二至今猶在_二目前_一、

読み

追想、先妣甚だ象戯を好むも、敢へて爲さず。病に臥するに及びて、間則ち兒を召して共に局に對す、互に勝負有り、其の笑語で馬を運ぶ、宛然として今に至るも猶ほ目前に在り、

訳

想い出。亡き母は将棋が好きだったが、自分からはすすんでやることはなかった。病気で床につくようになって、その間に私を呼んで対戦することがあった。互いに勝ち負けがあり、その笑いながら話して、将棋の駒を動かしていたことが、そのまま今も目の前にある。

言葉

甚_二ハナハダ_一

象戯_二シヨウギ_一 将棋

間_二カン_一 このごろ 病気が癒える

笑語_二シヨウゴ_一 笑言_二シヨウゲン_一 笑いながら話す。

局_二キョク_一 碁や双六などの勝負事 碁や双六などの盤

馬_二将棋の駒の一つ

宛然_二そっくりそのまま_一。あたかも。ちょうど

⑫ 追想、先考中年只在_レ家、指_二揮奴僕、躬親執_三耒耜_一者少矣、記兒七八歲、偶從_二先考_一往_二隴畝_一、先考耕_二乎前_一、兒播_二菽實_一、先考乃從而耨_レ之、風和日暖、父子相得、樂_二乎青桑之下_一、

読み

追想、先考中年には只家に在りて、奴僕を指揮す、躬親耒耜を執るは、少なし。記す兒七八歲、偶先考に従ひ隴畝に往く、先考前を耕し、兒菽の實を播く、先考乃ち從ひて之を耨ぶす。風は和らぎ日は暖か、父子相い得て、青桑の下で、樂しいかな。

訳

想い出。父は中年には只家にいて、召使い達に指図をしていた。自ら鋤を使うことは少なかつた。七、八歳のころ覚えていたことで、たまたま父に従つて、畑に行つたことだ。父は前を耕していき、私は豆の種を蒔いた。父はそれを後から土をかぶせていった。風は穏やかで陽は暖かだった。父と子は、共に満足し、青々とした桑の葉の下での楽しさであつた。

言葉

中年_二チユウネン_一 青年時代と老年時代の間、またその年代の人
只_二タダ_一 奴_二ヌ_一 ド 召使い 躬_二ミ_一 キユウ ミ 我が身
耒耜_二ライシ_一 すき 記_二キ_一 しるす おぼえる
隴畝_二ロウホ_一 畑 うねとあぜ 菽_二シユク_一 豆類 實_二ジツ_一 実
耨_二ユウ_一 種をまいて土をかぶせてまぶす
得_二マン_一 満足する。気が合う。したしむ。

從_二ヨリ_一 ヨリテ 得_二エル_一 満足する 気があう